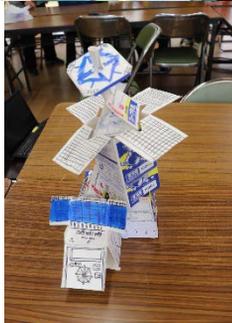


## こどもの建築的感性に関する研究とこども 「けんちくカフェ」の実践

総合理工学部 教授 千代 章一郎

持続可能な都市をつかっていくためには、こどもの視線も大切です。ミュンヘンをはじめとする世界各地でGUIC（Growing Up In Cities）の教育が進められている一方、イタリアでもこどもの造形能力を環境の中で育てていくプログラムが蓄積されています。日本においても世界的建築家伊東豊雄氏が建築塾を主催し、建築家の仙田満氏がこども環境建築を実践しています。

島根においても、千代章一郎建築論研究室が主催となって建築的な空間を自分たちの手で考えるこどもたちとの建築ワークショップを実践しています。幼稚園や小学校などの教育施設などの設計、あるいは造形教育プログラムの開発とは違ったアプローチです。こどもたちならではの建築的な見方、考え方をこどもたちと一緒に考えて、研究することによって、こどもたちの建築的な感性を見出し、未来の建築デザイン、都市デザインを豊かなものにする理論構築をめざしています。



「牛乳パックを「けんちく」にするコツ」ワークショップ。島根大学が主催する「サイエンスカフェ」の一環として、2019年12月に島根大学市民交流ハウスにて開催されたワークショップ。最初の説明はほんの少し、こどもたちが与えられた素材（牛乳パック）で自由に「隠れ家」をつくり、みんなでその空間を議論していきます。その成果は大学のホームページにも掲載され、こどもたちがつくった一つしかない「建築作品」が誰でも見られるようになっています。

<https://www.shimane-u.ac.jp/docs/2019122400054/>